

連載：軌跡

数学部会誌 $\alpha - \omega$ の一層の充実を期待して

弓削 直樹

私は 2015 年度で定年退職した。36 年間の教職生活であった。松戸六実高，若松高，市立銚子高，県立銚子高で数学科教諭として，佐原高，市立銚子高，佐倉西高，佐原白楊高で管理職として勤務し，多くの先生方と親交を深められたことは大きな財産である。

数学部会誌 $\alpha - \omega$ との関わりは，松戸六実高に在職していたとき，自分の研究を掲載していただいたことが始まりだった。今となっては拙く気恥ずかしい気持ちである。若松高に異動してしばらくした後，編集委員に加わった。当時編集委員長であった宇山邦彦先生のもとで，編集委員のメンバーと共に編集作業に取り組んだ。市立銚子高に異動してからも編集委員を続けた。1992 年度，数学部会誌第 30 号発刊を機に編集委員長を任された。大役に不安を感じながらも，何とか全うできたのは，当時の編集委員のメンバーの協力のお陰である。またその頃，数学部会誌 30 周年特別号を発刊させていただいたこともありがたい経験であった。

編集委員長を 5 年間務めた後，しばらく数学部会役員から離れていたところ，2011 年度，佐倉西高に赴任したときに再び声をかけていただいた。その後 4 年間で副部会長，部会長という職を任せていただいたが，大過なく終えることができたのは，偏に当時の数学部会の各役員の先生方，そして会員の皆様のお陰であり，ここに改めて深く感謝申し上げたい。

このようにして教職生活を終え，今は健康を意識しつつ悠々自適に日々を過ごしている。

さて皆さんの学校では今，学習指導要領の改訂に伴い，新しい教育課程の編成に取り組んでいる最中と伺っている。思えば私も在職中に幾度かそのようなことがあり，その都度趣旨を必死に理解し取り組んでいた。もはや定年退職した身なので偉そうにももの申す気は無いのであるが，機会をいただいたのでひと言，私感を書かせていただこうと思う。

高等学校での数学教育は，大学教育の基礎として確かに重要である。しかし，理系の大学に進学する生徒数が全体の 1 割程度である現状を考えると，多くの生徒に教える高等学校での数学はもっと別の観点から考えていかなければならないのではないかと，例えば生涯学習の基礎となるような，生き生きとした数学が教えられるようになったらと思うのである。昔の私もそうだったかも知れないが，知識や技能を教え込むことを中心にした授業をしてしまいがちであるが，それよりも生徒が自ら考え，主体的に判断し行動できる資質や能力を育成する授業を，今後も一層工夫していかなければならないのではないかとと思うのである。

生徒が数学を学ぶ面白さが分かり，そのことで論理的に考えることもできるようになり，さらに分析力や論理的思考力，表現力などの習得ができ，さらに一歩進んで未知のものに進んで取り組んで行こうとする意欲や態度を構築するような素敵な授業に，皆さんが取り組んでいただけたらと思う。そしてこの数学部会誌 $\alpha - \omega$ は，数学教員同士の情報共有の手段としても果たす役割は重要なものとなってきてるので，さらなる充実が図られることを期待している。

数学部会誌 $\alpha - \omega$ が創刊されたのは 1964 年で，東京オリンピックが行われた年である。再び東京でオリンピックが開催される年に発刊される数学部会誌に，私も関わりが持てたことに感動し，感謝している。